

日本そして世界が認めた有名ブランドの木材加工機械販売

フソー株式会社 奈良県桜井市

フソー株式会社は、国産の木材加工・省力化機械販売および欧米有名ブランドの木材加工機械の輸入販売、およびそれら機械の取り付け、メンテナンスを主な業務としている。他社に先駆けて、多数の欧米有名木材加工機械メーカーと業務提携を行い、世界が認めた信頼のブランドを、適正な価格で提供し、業容の拡大を図っている。

同社は、将来の地球環境にも配慮して、重要な木材資源を、有効かつ効率的に利用するための「設備+システム+情報」を世界各地より取り寄せ、顧客に提供している県内の成長企業の一つである。

会社概要



会社名：フソー株式会社
 所在地：奈良県桜井市吉備戎町 588
 電話：0744-43-2020
 F A X：0744-43-2024
 創業：昭和 27 年 1 月
 設立：昭和 33 年 2 月
 代表者：代表取締役社長 桑原 証人
 資本金：4,960 万円
 従業員：15 名（うちエンジニア 6 名）
 事業：国産木材加工・省力化機械の販売、木工機械輸入販売、木工機械の取り付け・メンテナンス、その他
 URL：<http://www.fuso-ltd.co.jp/>



本社・本社工場

地場の製材業者から木材加工機械商社へ

桜井は吉野材の集積地である。数多くの製材関連業者があり、同社もルーツをたどれば、地場の製材業者である。昭和 27 年に木材加工機の販売会社として「富桑製材機」を創業。昭和 33 年、法人組織に改編し、社名を「富桑製材機株式会社」とした。

昭和 40 年代前半には桜井木材団地や五条木材団地が開発され、同社は入居企業の約 8~9 割に設備機械を納入した。また、昭和 40 年代後半には、桜井木材天理団地の全企業に同社の設備機械を納入し、同社は高度経済成長の波にのることが出来た。さらに平成 4 年、五條市に造成開発されたテクノパーク・なら工業団地にも大型設備機械を納入している。

欧米・有名木材加工メーカーとの業務提携



最新鋭のドイツ・アーテンドルフ社製木材加工機（F45）

昭和 59 年に「フソー株式会社」と現社名に変更。本社・本社工場を建設し、製作修理設備と自動倉庫システム機構を導入した。昭和 63 年、製材歩留と能率をアップするための「カーブキャッチャー（鋸挽き曲がり検出機）」を四国・中国地方の数十社の企業に納入して好評を博し、全国に代理店網を展開していった。

海外の世界的な有名ブランドの木材加工機メーカーとの業務提携は、昭和 60 年に米国・マンラッセル社（高周波プレス、連続水分計）、昭和 61 年にイタリア・コッパー社、次いで、昭和 62 年に

西ドイツ・アイエン社（自動節穴埋め機）、フランス・ギリエ社（モルダー：木材の多面を同時に切削する木工機械）と次々に展開し、業績拡大を図った。近年においても、欧米ブランドメーカーとも業務提携を随時行っており、輸入機械の製品構成は幅広くなった。

最新鋭機械の導入で生産性アップを提案



ボード材加工機等の常設展示場「フーメックス1」

同社は、将来の地球環境にも配慮し、重要な木材資源を、有効かつ効率的に利用するために、「設備+システム+情報」を世界より取り寄せ、幅広く提供している。また、顧客サービスの一つとして本社敷地内に常設展示場「フーメックス1 (FuMex1)」を設置。ボード材加工機等を展示し、本格的な集塵機も備えている。そして国道165号線沿いには、無垢材加工機を展示、内装も杉材を使用した「フーメックス2 (FuMex2)」を設置。これらの展示場は、単に機械の展示だけではなく、木材の様々な可能性や、用途、加工方法も合わせて展示している応用範囲の広い常設展示場である。

同社の強みは、各種機械の販売から取り付け、そしてメンテナンスに至るまでの業務をトータルにサポートしている点である。また、本社内にはパーツセンターを設け、常時、主要部品を保有しており、各種メンテナンスがスピーディである。

世界の木材加工機械で、生産額が最も多い国は一位ドイツ、二位イタリア、三位台湾、そして四位に日本が入る。機械の性能は、やはりドイツやイタリア、フランスの欧州が一步先んじており、技術の最先端を走っている。その要因の1つとしては、欧州では建築物の内装や家具類に日本でよく

使用する無垢材より硬い「ボード（細かい木くずを圧縮した板）」を多用することから、その加工には高精度な機器を必要としたと考えられている。

同社の桑原社長は、近い将来、日本も欧州同様に住宅の新築およびリフォームに「ボード」の需要が増加すると、以前から予測している。また、欧州に比べて日本は、21世紀の重要資源の「木材」の活用が極端に少ない。そのため、同社は、他社に先駆けて、多数の欧州有名木材加工機械メーカーと業務提携を行い、今後も業容拡大を図ることを計画している。

「速く・確かに・親切に」をモットーに



最新鋭のドイツ製モルダー（向かって左側）や無垢材加工機（右側）が設置してある「フーメックス2」

際立った経済成長を続ける中国の木材加工業は、他業種と同様に「大量生産、単純生産、納期なし」といった製造を得意としている。そのため日本の木材加工業者が、中国をはじめ新興国と競争して勝者になるには、新興国とは「逆の発想」、すなわちユーザーからの「少量、複雑な製品、短納期」の要求に応えられる企業になる必要がある。

桑原社長は、日本の就業人口の減少に伴う木材加工業の就業者数の減少や、ユーザーからの高度な要求に応えるためには、最新鋭機器による生産性アップしか、術はないと考えており、そのためには、「速く・確かに・親切に」をモットーに、木材業界に益々貢献していきたいと力強い。

同社は、今後においても業界ニーズに応えるために、積極的に研究や開発に注力し、たゆまぬ発展を求めて健全な進歩と調和を計り社会に貢献する企業を目指している。（武村、山城）